

## データ工学論文特集の発行にあたって



データ工学論文特集編集委員会

委員長 宮崎 純

データ工学論文特集は、和文誌と英文誌の同時特集企画である。2010年2月28日から3月2日にかけて兵庫県立淡路夢舞台国際会議場にて開催された、データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム（DEIM 2010）と連携して企画されたものである。

データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム（DEIM）は、データ工学と情報マネジメントに関する様々な研究テーマの討論・意見交換を目的としたワークショップである。1990年より毎春開催してきたデータ工学ワークショップ（DEWS）を発展させ、2009年よりDEIMと名前を変えたものの、学界の研究者や学生による萌芽的な研究だけでなく、企業の研究者や技術者による産業に直結する研究成果の発表の場を提供する、という趣旨は貫いている。DEIM 2010は、DEWS時代を通じても至上最大規模となる475名が参加し、大盛況となった。

DEIM 2010の研究発表形式は、口頭発表並びにポスターやデモによるインタラクティブ発表の2種類とし、どちらか一方、あるいは両方の発表の選択制とした。ただし、DEIMの役割の一つである若手育成という観点から、博士課程進学予定者、博士課程学生、学位取得後3年以内の発表者には、質疑が不十分となりがちな口頭発表だけでなく、議論が十分できるインタラクティブ発表も必須とした。最終的な発表件数は、口頭発表のみ119件、インタラクティブ発表のみ9件、両方の発表が159件、計287件となった。両発表形式とも、ここ3年ほど試行されているコメントータ制を採用した。これは、各セッションごとにコメントータと呼ばれるその研究分野に精通した専門家を配置し、積極的に質問や意見を出して頂くことにより、発表者に

良いフィードバックを返すことを目的としている。コメントータ制によるところも多いが、口頭発表では活発な質疑応答が、また、インタラクティブ発表では十分な意見交換がなされた。会議終了後、各セッションの座長とコメントータからの報告に基づき、DEIM 2010実行委員会での厳正な審議を経て、最優秀論文賞と優秀論文賞をそれぞれ2編ずつ選定し、表彰を行った。

DEIM 2010で発表された多数の優れた論文をはじめ、一般にもデータ工学並びにその関連分野の論文を広く募集した結果、28編の論文投稿があった。厳正な査読と審査を経て、最終的に4編の論文が採録となった。採録率としては極めて厳しい結果となったが、それだけに採録された論文は最近の研究動向を報告した質の高い価値あるものばかりである。採録された論文の中には、研究会推薦論文としてDEIM 2010の最優秀論文も含まれている。分野としては、分散データベース、オントロジ、テキストマイニング、音楽情報からなり、データ工学分野のすそ野の広がりや多様性が容易にうかがえよう。

本特集を編集するにあたり、厳しいスケジュールにも関わらず丁寧な査読をして頂いた査読委員の方々、並びに休平日の区別なく編集作業に携わって頂いた編集委員の方々に厚く御礼を申し上げる。特に和文誌特集の編集幹事の京都工芸繊維大学 宝珍輝尚先生と首都大学東京 片山薫先生、並びに英文誌特集の編集幹事の大阪大学 春本要先生には、編集作業全般に渡り大変御尽力頂いた。更に学会出版事務局の高木久恵様にも大変お世話になった。この場をお借りして、皆様に心より御礼申し上げます。

最後に、本データ工学論文特集をはじめとして、データ工学と情報マネジメントに関連する学会や研究会の活動や連携が、ますます当該分野の繁栄、発展に結びつくことを強く願っている。

みやまき じゆん  
宮崎 純（正員） 平4東工大・工・情報卒。平9北陸先端大・情報・博士後期課程了。博士（情報科学）。現在、奈良先端大・情報科学研究科・准教授。平12～13テキサス大学アーリントン校客員研究員。平15～19科学技術振興機構さきがけ研究員を兼務。高性能・高機能データ工学システムや情報検索の研究に従事。DEIM2010実行委員長、データ工学研究専門委員会副委員長。情報処理学会、日本データベース学会、ACM、IEEE-CS各会員。

#### データ工学論文特集編集委員会

委員 幹事 委員	長	宮崎純	片山薫	池田哲夫	石川佳治
	幹	宝珍輝	・有次正	・鬼塚真	・小口正人
	事	天笠俊之	・大森島	・是津耕司	・中島伸介
	員	市川哲彦	・國島隆	・森本康彦	